

令和6年度 施策・基本事業マネジメントシート（令和5年度実績に基づく評価）					作成日 令和 6 年 7 月 30 日		
政策体系	基本目標名	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり		施策主管課長	環境政策課	
	政 策 名	1	環境にやさしいまちづくり				
	施 策 名	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全				
施策関係課	市民生活課、衛生施設室、気候変動対策課、健康増進課、農山村振興課、都市整備課、道路河川課、学校教育課、生涯学習課					櫻井 学	

1. 施策の目的と成果把握

施策の目的 「対 象」	この施策は、誰、何を対象としているか	対象指標		単位	R4	R5	R6	R7	成果指標 設定の考え方	①河川、側溝、空気、騒音、振動、臭気等の生活環境の状況を市民がどのように受け止めているのが確認できるため、指標とした。 ②自然環境の主となる森林が、適切に保全されていることを把握するため、指標とした。 ③市民の環境に対する行動を測るため指標とした。 ④自然環境に影響を及ぼす企業の事業活動に伴う公害苦情の状況を把握するため、これを指標とした。
	①生活環境(水、大気、土壌、騒音、振動、悪臭) ②自然環境(森林、緑地、河川、水辺、動植物の生態系) ③市民 ④事業者	① 市域面積		km ²	356.04	356.04				
		② 森林面積		ha	20,561	20,561				
		③ 市人口		人	115,700	114,695				
		④ 事業所数(H28,R3経済センサス調査)	事業所	6,236	5,884					
施策の目的 「意 図」	この施策によって、「対象」をどういう状態にするのか	成果指標(意図の達成度を表す指標)	区分	単位	R4	R5	R6	R7	成果指標の 取得方法	① 環境政策課資料 ② 農山村振興課資料 ③ 環境政策課資料 ④ 環境政策課資料
	①環境汚染を未然に防止し、良好な生活環境を維持する。 ②自然環境を適切に保全し、次世代に引き継ぐ。 ③環境を大切にすることを育て、環境に配慮した生活を送る。 ④環境に配慮した事業活動を行う。	① 生活環境に関する苦情件数(単年度)	目標	件	135	130	125	120		
			実績		172	183				
		② 適切に整備された森林面積(主伐、間伐の計)(単年度)	目標	ha	300.0	386.0	472.0	558.0		
			実績		312.0	330.2				
	③ 環境美化活動の届出件数(単年度)	目標	件	130	135	140	145			
		実績		83	79					
	④ 事業活動による公害苦情件数(単年度)	目標	件	18	17	16	15			
		実績		35	35					

2. 基本事業の目的と成果把握

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	R4	R5	R6	R7	基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	R4	R5	R6	R7
良好な生活環境の確保	①市民 ②事業者 ③生活環境（水、大気、土壌、騒音、振動、臭気）	①②③公害の発生を未然に防止するとともに、公害の発生源対策を講じ、良好な生活環境を保全する。 ③生活環境が基準値に適合しているか監視する。	① 河川・地下水の水質の環境基準達成率	目標	%	99.5	99.5	99.5	99.5	自然環境の保全	①市民 ②自然環境	①自然環境を大切にする心が育成されている。 ②豊かな自然環境が保全されている。	① 自然観察会への参加者数（単年度）	目標	人	150	170	190	215
				実績		98.0	97.3							実績		45	90		
			② 騒音に係る環境基準達成率	目標	%	100.0	100.0	100.0	100.0				② 特定外来生物（クビアカツヤカミキリ）による被害認知件数（単年度）	目標	件	120	130	140	150
				実績		100.0	100.0							実績		64	115		
			③ 公害苦情に伴う事業所への立入調査数（単年度）	目標	事業所	57	57	56	56				③ 里山林整備面積（単年度）	目標	ha	10.0	10.0	10.0	10.0
				実績		28	43							実績		0.0	0.0		
			④ 環境に配慮した生活をしている市民の割合	目標	%	35.0	37.5	40.0	42.5				④	目標					
				実績		34.2	33.6							実績					
			①	目標									①	目標					
				実績										実績					
			②	目標									②	目標					
				実績										実績					
			③	目標									③	目標					
				実績										実績					
			④	目標									④	目標					
				実績										実績					

3. 施策の目標達成度評価

令和5年度施策の取組方針					施策の取組方針・成果指標達成状況				
施策	取組方針	□ 全て達成			【施策の取組方針達成状況】 ・空き地の適正な管理、犬猫の適正飼養、野焼きの禁止等についての啓発や原因者に対する指導を行った。また、県と連携し、特定外来生物による被害を抑えるため薬剤や防除ネットの貸出しを行った。さらに、公有施設におけるクビアカツヤカミキリに対する取組方針を運用した。（生活環境保全事業、狂犬病予防事業、クビアカツヤカミキリ対策事業） ・河川水、地下水、自動車騒音等の定期的な観測・調査のほか、関係機関と連携し公害パトロールを実施した。（水質保全事業、自動車騒音常時監視面的評価事業、生活環境保全事業） ・地域の環境美化活動に取り組む団体をホームページで紹介してきたが、表彰についてはコロナ禍等で中止したことにより、その後再開まで至らなかった。 ・「ごみ屋敷」に関して、佐野市生活環境保全庁内連絡会議設置要綱に基づき会議を開き、佐野市建築物の適切な管理による生活環境の保全に関する条例に基づき指導した。（生活環境保全事業） ・飲用水等給水施設整備費等の補助率を改正した。該当地域にチラシを配布し、説明会を開催したが、補助申請はなかった。（水道水未普及地域支援事業） ・自然観察会を企画し、計画どおり実施した。（森林環境学習事業） ・里山林の整備・維持管理について、旧来の活動団体への制度周知はおこなった。また新規団体は広報紙により全市民へ周知を行い、掘り起こしを行った。				
		☑ 一部未達成			【ごみ屋敷】に関して、佐野市生活環境保全庁内連絡会議設置要綱に基づき会議を開き、佐野市建築物の適切な管理による生活環境の保全に関する条例に基づき指導した。（生活環境保全事業） ・飲用水等給水施設整備費等の補助率を改正した。該当地域にチラシを配布し、説明会を開催したが、補助申請はなかった。（水道水未普及地域支援事業） ・自然観察会を企画し、計画どおり実施した。（森林環境学習事業） ・里山林の整備・維持管理について、旧来の活動団体への制度周知はおこなった。また新規団体は広報紙により全市民へ周知を行い、掘り起こしを行った。				
		□ 全て未達成			【施策・基本事業の成果指標達成状況】 ・生活環境に関する苦情件数、事業活動による公害苦情件数は、目標を上回り未達成となった。（生活環境保全事業） ・林業の活性化として、間伐を実施する事業者が少なかったため、市内の間伐面積（単年度）は目標数値に届かなかった。（間伐推進支援事業） ・環境美化活動の届出件数は、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残っていると推察され、目標を下回り未達成となった。 ・地下水の水質は全て環境基準以下であったが、河川はBODなど一部が基準超過のため目標を下回り未達成となった。（水質保全事業） ・騒音の環境基準は、目標を達成した。（生活環境保全事業） ・公害苦情に伴う事業所への立入は、R4よりも増加したが目標を達成した。（生活環境保全事業） ・環境に配慮した生活をしている市民の割合は、行動変容に十分繋がっておらず、目標を下回り未達成となった。 ・自然観察会への参加者は、R4よりも増加したが、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残っていると推察され、目標を下回り未達成となった。（森林環境学習事業） ・クビアカツヤカミキリによる被害認知件数については、周知啓発を行い件数は増えたものの、目標を下回り未達成となった。（クビアカツヤカミキリ対策事業） ・里山林整備面積（単年度）は里山林の新規整備箇所として、R4年度から新たに1団体の取組み相談を受け、協議を行ってきたが、R5年度になっても地域団体の申請が整わなかったため実績が0となった。（里山林整備事業）				
		□ 全て未達成			【生活環境に関する苦情件数、事業活動による公害苦情件数は、目標を上回り未達成となった。（生活環境保全事業） ・林業の活性化として、間伐を実施する事業者が少なかったため、市内の間伐面積（単年度）は目標数値に届かなかった。（間伐推進支援事業） ・環境美化活動の届出件数は、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残っていると推察され、目標を下回り未達成となった。 ・地下水の水質は全て環境基準以下であったが、河川はBODなど一部が基準超過のため目標を下回り未達成となった。（水質保全事業） ・騒音の環境基準は、目標を達成した。（生活環境保全事業） ・公害苦情に伴う事業所への立入は、R4よりも増加したが目標を達成した。（生活環境保全事業） ・環境に配慮した生活をしている市民の割合は、行動変容に十分繋がっておらず、目標を下回り未達成となった。 ・自然観察会への参加者は、R4よりも増加したが、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残っていると推察され、目標を下回り未達成となった。（森林環境学習事業） ・クビアカツヤカミキリによる被害認知件数については、周知啓発を行い件数は増えたものの、目標を下回り未達成となった。（クビアカツヤカミキリ対策事業） ・里山林整備面積（単年度）は里山林の新規整備箇所として、R4年度から新たに1団体の取組み相談を受け、協議を行ってきたが、R5年度になっても地域団体の申請が整わなかったため実績が0となった。（里山林整備事業）				

4. 施策の基本情報

施策の基本情報	社会情勢変化、国・県の動向、市民・議会意見等	施策の成果向上に向けての役割分担		
	・福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の国による「汚染状況重点調査地域」指定が、平成28年3月31日で解除された。 ・議会及び近隣住民から、いわゆる「ごみ屋敷」の解消に向けた取組が求められている。 ・空き地の適正管理、犬猫のふん害防止を含めた適正飼養、野焼きの禁止、事業活動に伴う公害の防止等については監視のほか土砂条例に基づく措置を行った。 ・特定外来生物（クビアカツヤカミキリ）による被害が拡大している。 ・令和元年東日本台風の水害により、以前にも増して、水道水未普及地域への支援等が求められている。	市民	事業所	行政
		・野外焼却、ポイ捨て等を行わないなど近隣住民の生活環境に悪影響を与えないようにする。 ・空き地の管理を適正に行う。 ・犬猫等を適正に飼養する。 ・環境美化活動や環境保全活動を行う。 ・身近な自然の保護活動、ふれあい活動、環境学習に参加する。 ・良好な自然環境を次の世代に引き継ぐ。	・公害関係法令を遵守し、環境に負荷を与えないように事業活動を行う。 ・企業の社会的責任として環境美化活動や環境保全活動を行う。 ・森林を適正に管理する。 ・間伐材等を活用した商品の開発と普及に努める。	・生活環境の保全に関する啓発を行う。 ・大気、水、土壌の汚染状況を監視する。 ・事業所への立入調査や指導を実施する。 ・里山林整備の支援を行う。 ・自然保護活動の支援と環境学習を推進する。

5. 施策全体の総括・今後の課題・今後の方向性

施策の成果実績と施策の基本情報及び施策コストに関する全体総括	今後の課題	今後の方向性
・河川水、地下水、自動車騒音、空間放射線量等については、定期的な測定・調査を実施した。河川水、地下水の水質については、環境基準を下回った箇所があり、成果指標を達成できなかったため、今後の状況を注視する必要がある。許可済の土砂埋立て現場については、定期的に監視を行い、無許可案件については監視のほか土砂条例に基づく措置を行った。 ・空き地の適正管理、犬猫のふん害防止を含めた適正飼養、野焼きの禁止、事業活動に伴う公害の防止等について、広報さのや市ホームページで啓発を行うとともに、県と協力して公害パトロールを実施し、事業者に対し、公害防止の啓発及び指導を行った。 ・地域の環境美化活動については、市民の生活環境や自然環境の保全に対する機運を高めるためにも、さらなる取組拡大に繋げる必要がある。 ・特定外来生物のうち、クビアカツヤカミキリについては近年被害が急拡大しており、早急な対応が必要なことから、栃木県クビアカツヤカミキリ被害対策協議会等と連携して、チラシ配布等により被害拡大防止と駆除等の情報提供を行った。公有施設においては、今後、取組方針に基づき、対策を推進する必要がある。 ・「ごみ屋敷」に関して、佐野市生活環境保全庁内連絡会議設置要綱に基づき会議を開き、佐野市建築物の適切な管理による生活環境の保全に関する条例に基づき指導した。 ・自然環境への関心を高めるために、森林観察会、生き物観察会を開催した。 ・里山林の整備・維持管理についての制度周知及び、新規団体の掘り起こしを行ってきた。しかし、中山間地域の高齢化や人口の減少により、新規整備団体の掘り起こしは難しくなってきた。 ・施策全体の決算額は令和5年度が2億965万円となり、令和4年度と比較すると約2億472万円の減となった。主な要因は佐野地区衛生施設組合のし尿処理施設改造事業の減によるものである。	【令和6年度で解決する課題】 ・土砂条例に基づく無許可土砂埋立ての改善 【令和7年度以降にも引き継がれる課題】 ①典型7公害（水質汚濁、大気汚染、騒音、振動、悪臭、土壌汚染、地盤沈下）の防止による良好な生活環境の維持 ②市民の環境美化活動への自主的な取組の拡大 ③「ごみ屋敷」の解消 ④水道水未普及地域での飲用水の安全・安定確保 ⑤市民の自然環境への関心の向上 ⑥盛土規制法の運用開始に伴い、新たに認知した無許可土砂埋立ての改善 ⑦里山林維持管理団体の体制づくりと新規整備団体の掘り起こし 【令和7年度重点課題】 ⑧空き地の適正管理、犬猫の適正飼養及び野焼きの禁止対策 ⑨特定外来生物（クビアカツヤカミキリ等）による被害対策	①河川水、地下水、自動車騒音等の定期的な観測・調査を行う。また、県と協力し、公害パトロールを実施することにより、事業所から発生する公害による苦情を未然に防止し、良好な生活環境を維持する。 ②地域の環境美化活動に取り組む団体を広報さのや市ホームページで紹介し環境美化についての啓発を図り、市民の環境美化活動への自主的な取組の拡大を図る。 ③「ごみ屋敷」の解消に向け、関係機関と協力し指導等を継続するとともに、周辺的生活環境を保全していく。 ④飲用水等給水施設整備費等の補助により、飲用水の安全確保をしつつ安定確保に向けた支援を行う。 ⑤自然環境への関心を高め、環境保全活動を促進するため、自然観察会の開催や環境に関する啓発を行う。 ⑥盛土規制法の運用開始に伴い、新たに認知した無許可土砂埋立てについては、県と連携し指導等を行う。 ⑦里山林の整備・維持管理を推進するため、今後も制度の周知及び新規団体の掘り起こしを行う。 ⑧空き地の適正な管理、犬猫の適正飼養、野焼き禁止等について、一層の啓発を図るとともに、苦情の原因者に対する指導を強化する。 ⑨県、近隣市等と連携し、特定外来生物（クビアカツヤカミキリ等）による被害を最小限に抑える。